薬師寺西小子房・十字廊（食殿）発掘調査現地説明会資料

奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部

1978年 3 月 9. 10 日

調査主体　薬師寺　　**調査期間**　1978年1月17日～

調査地区　薬師寺西小子房・十字廊　　**発掘面積**　540 ㎡

検出遺構

西小子房地区　西小子房の第3房から第5房までと北側の雨落溝を検出したほかいくつかの土壙を検出した。小子房西南部は中世の沼地によってかなり破壊されていたが、東北部は厚く焼土・瓦に覆われており、比較的良く残っていた。各房は壁で仕切られ桁行2間（20尺）、梁行2間（14尺）である。各房の中央には柱があり、第3、4房では北半分に間仕切りの壁がある。礎石はすべて抜き取られていた。各房ごとに床下には木樋暗渠が南北に通っており北へ排水している。小子房北側には堰板を両側に立てた幅40㎝の雨落溝がある。その北側には建物はなく、土壙が6個所ある。小子房の焼亡は第3房床面出土の土器の年代から10世紀後半と考えられる。これは前回の西僧房の発掘調査の所見と一致し、「薬師寺縁起」にみえる天禄4年（973）の僧房焼失の記載とも矛盾しない。焼亡後、小子房は再建されていないことも判明した。

十字廊地区　十字廊は「縁起」によれば、東西14丈1尺、南北5丈6尺と記載され、平面十字形で食堂の北方にあると推定されてきた。今回はその西半部を調査し、十字廊、雨落溝、板組み遺構、土壙、近世の上水施設等を検出した。基壇は掘り込み地業をせず、青灰色粘質土の地山の上に茶褐色の山土を積み、凝灰岩で基壇化粧をしている。基壇は後世の撹乱をうけているが、礎石据えつけ痕跡、基壇化粧石の一部を検出した。十字廊と食堂の東西桁行は「縁起」によれば同規模である。前回の調査によって食堂西端が確認されているので、これを伽藍中軸線で東に折り返すと食堂・十字廊の桁行規模も復原できる。調査の結果によると、十字廊の東西の柱間寸法は、中央の間は15尺と推定され、脇の間14尺、次の間13尺、端3間は各12尺となる。梁行は2間（8尺等間）である。十字廊は中央間（15尺）の柱にあわせて南に3間（10尺等間）分延びている。北にも基壇が張り出しているので建物が続くことは明らかで、十字廊が「縁起」記載の十字形の建物であることが確認された。「縁起」にみえる南北5丈6尺からすると北への張り出しは10尺1間と推定される。十字廊南側の雨落溝（幅50㎝）の護岸は北側は凝灰岩で南側が堰板である。この雨落溝は石組の南北溝（幅40㎝）に接続し、さらに食堂北側の石組の雨落溝とつながっている。

出土遺物　西小子房・十字廊両地区から出土した遺物は多量の瓦のほか土器、金属製品などがある。

瓦　多く出土しているのは本薬師寺と同型式の瓦である。出土量は少ないが奈良時代の薬師寺所用瓦や平城宮と同笵の瓦もある。十字廊基壇に掘られた土壙からは長方形の緑釉垂木先瓦が出土している。以上の瓦の他に中世の沼地や整地土中から平安時代以降の瓦が多量に出土した。

土器　大部分は土壙および雨落溝から出土した。土器には土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、灰釉陶器、鉛釉陶器、中国製の磁器等があり、土師器の出土量が最も多い。十字廊基壇に掘られた土壙からは土師器、黒色土器、瓦器、鉛釉陶器が出土しており、これらの土器の年代から十字廊は遅くとも12世紀には廃絶していたことがあきらかになった。以上のほかに蹄脚硯、灰釉の円面硯、宝珠硯等も出土している。

金属製品としては銅製の蝶番、螺髪が各1点出土している。

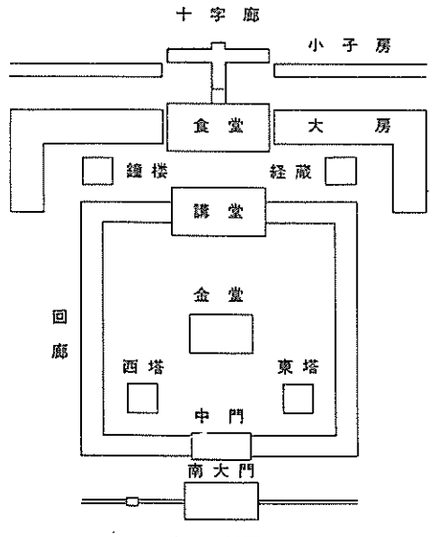
まとめ　1974年秋の西僧房調査と今回の調査により次のことがあきらかとなった。(1)大房・付属屋・小子房が1単位となって構成する僧房1房分の区画は東西6 m、南北30.5mである。(2)小子房の各室の中央には柱がたち、そこから北に壁があり室の一部を仕切っている。(3)西僧房は10世紀後半に焼亡し廃棄されている。この時期は「縁起」にいう天禄4年の焼亡記事と一致している。(4)十字廊は食堂の後方にあり、東西の桁行11間（14丈1尺）、梁行2間（16尺）で、この中央間より南に桁行3間（30尺）、北側に1間張り出しがある平面十字形の建物である。(5)十字廊の遺構復原の東西長は「縁起」に記載されている東西長14丈1尺と一致する。(6)十字廊は、「縁起」によれば天禄4年火災の失火元にあたり、焼亡した後に別当増祐により寛弘2年（1005）に南北の丈尺は元のように再建されている。今回検出した十字廊基壇が再建した時のものかどうかについては目下検討中である。

薬師寺縁起（長和4年撰述）抜萃

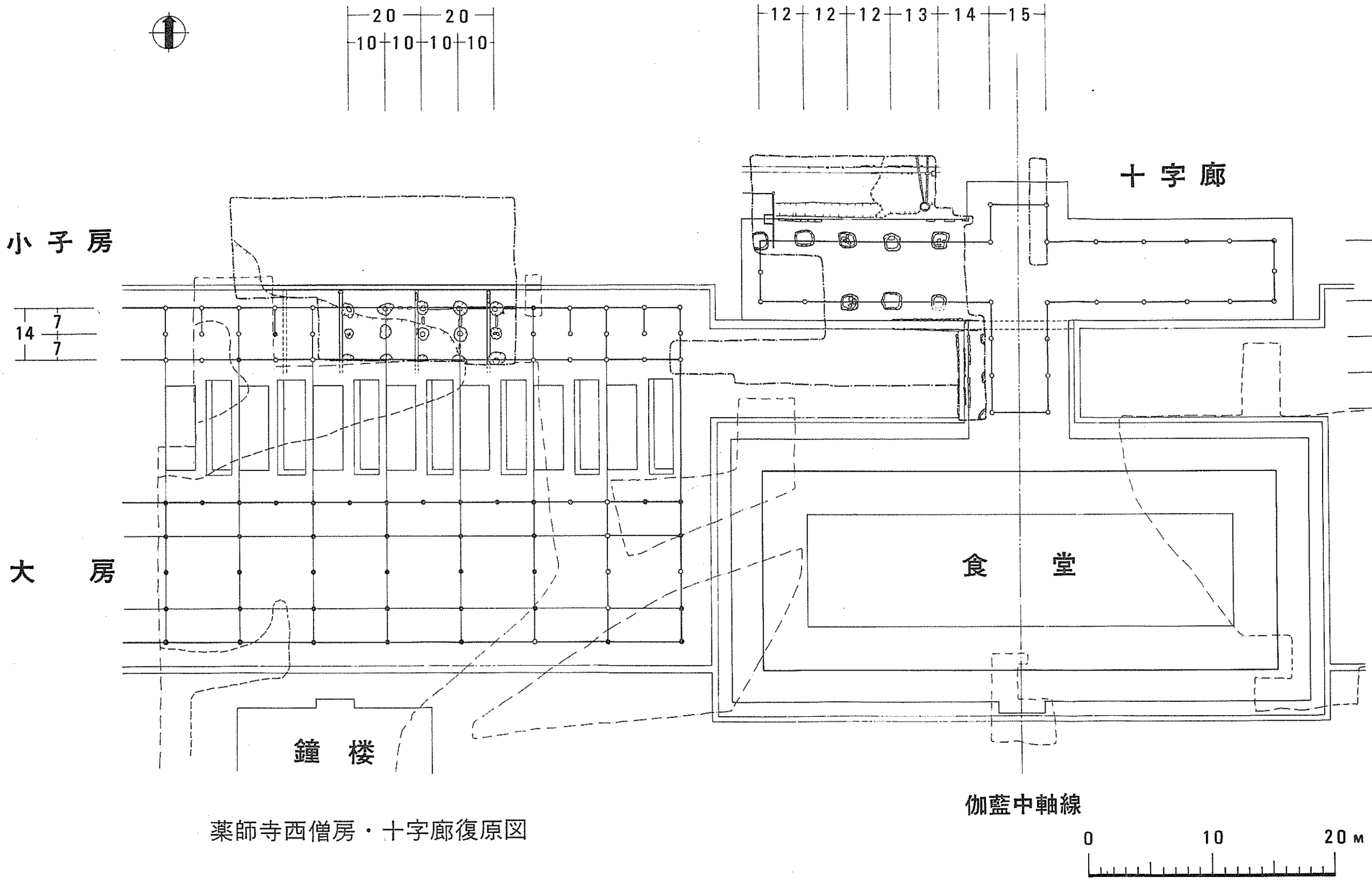
(1)天禄四年癸酉二月廿七日夜、食殿堂童子宿所より慮外の失火、食堂、講堂、三面僧房、四面廊、中門、大門、悉く以て焼亡す。

(2)十字廊一宇、東西十四丈一尺、南北五丈六尺、高さ九尺二寸、食殿と云ふ。

右は天禄四年二月廿七日焼亡す。而して別当増祐、寛弘二年を以て造立す。但し南北は本の如し。



薬師寺伽藍配置図



薬師寺西僧房・十字廊復原図